科目ナンバリング	U-LAS70 10001 SJ50						
授業科目名 <英訳>	ILASセミナー：京都の文化を支える森林－地域の智恵と生態学的知見 ILAS Seminar :Forests Supporting Kyoto			担当者所属職名・氏名	フィールド科学教育研究センター 准教授 石原 正恵 フィールド科学教育研究センター 教授 徳地 直子 フィールド科学教育研究センター 講師 坂野上 なお		
群	少人数群	単位数	2単位	時間数	30時間	授業形態	ゼミナール（対面授業科目）
開講年度・開講期	2024・前期集中	受講定員(1回生定員)	13 (13) 人	配当学年	主として１回生	対象学生	全学向
曜時限	集中	教室	未定 (北部構内)			使用言語	日本語
キーワード	森林 / 生態系サービス / 林業 / 野生動物 / 里山						

[授業の概要・目的]

京都は豊かな森林・水などの自然に支えられ、その資源を利用することによって古より発展を遂げきた。多くの文明が環境破壊と生態系サービスの劣化によって失われた事実とは対照的に、京都周辺には現在でも多くの森林や渓流が残り、京都の文化を支えている。

本科目では、京都市の里山や芦生の原生的な森林などで、森林と人間の関係を科学的に捉える研究手法を実習を通して学び、森林の利用に関する地域の歴史や人々の智恵を、猟師などの地域の多様な人と接するなかから学ぶ。そして、森林と人間社会との新しい関係を考える。

[到達目標]

京都における森林の歴史や現在の状況を学習し、森林をめぐる環境問題に対し、実習を通じて科学的な知識や研究手法を習得する。加えて、地域の人々や活動を体験し、人間社会と森林の関係について考察し、多面的な視野から対応策を考えられるようになる。

[授業計画と内容]

前期集中
実習期間は9月11-13日の2泊3日の予定です。この日程で参加できる場合だけ申し込みください。

事前授業を8月に行います。日時は学生と相談して決定します。
連絡はメールを用いて行うので、必ずKULASISに登録しているメールを確認すること。

森林と人間の関わりに関する歴史的知見ならびに森林生態系に関する生態学的知識について学習する。

その後、京都大学が有する、里山として利用されてきた上賀茂試験地、原生的な森林である芦生研究林にて実習を行う。

森林と人間社会の関係について、植生（石原）や歴史・生活（坂野上）といった異なる側面から、調査、データ解析、発表を行い、科学的な研究の流れを理解する。

さらに猟師や林業家など森林と関わる仕事をしている学外の講師の話を聞き、人工林やかやぶきの里を見学し、森林がどのように管理され、人々がどのように森林とともに生きてきたかを学ぶ。

１日目　上賀茂試験地：京都市の里山
　ガイダンス
　森林と人間の関係について講義
　上賀茂試験地の見学
　芦生研究林へ移動・夕食

ILASセミナー：京都の文化を支える森林－地域の智恵と生態学的知見(2)へ続く↓↓↓

ILASセミナー：京都の文化を支える森林－地域の智恵と生態学的知見(2)

森と人との関わりについて猟師などの外部講師

２日目　　芦生研究林の自然と調査
午前　樹木種の識別実習、原生的森林の観察
午後　調査体験
班ごとのデータ解析、まとめ、ディスカッション
各班の発表、ディスカッション
夕食

３日目
かやぶきの里、木材市場などの見学
北白川試験地の見学
解散

[履修要件]

前期開講の、森里海連環学系科目　森里海連環学IおよびII　を受講しておくことが望ましい。

[成績評価の方法・観点]

実習中の発言、調査結果の発表とレポート作成。詳細は授業中に説明する。

[教科書]

授業中に指示する

[参考書等]

（参考書）
森林立地学会編 『森のバランス』（東海大学出版会）
石原正恵・赤石大輔・徳地直子　編 『「大学の森」が見た森と里の再生学 京都芦生・美山での挑戦』（京都大学学術出版会）
中静透・菊沢喜八郎　編 『森林の変化と人類』（共立出版）
高槻成紀 『シカ問題を考える』（山と渓谷社）
京都伝統文化の森推進協議会 『京都の森と文化』（ナカニシヤ出版）

（関連ＵＲＬ）

https://fserc.kyoto-u.ac.jp/wp/ashiu/(芦生研究林)

[授業外学修（予習・復習）等]

事前に芦生研究林・上賀茂試験地・北白川試験地についてフィールドセンターのHPを確認すること。
実習前に課題を出し、実習時に提出してもらう。

[その他（オフィスアワー等）]

学生教育研究災害傷害保険および学研災付帯賠償責任保険（付帯賠責）に必ず加入しておくこと。
実習は芦生研究林および上賀茂試験地・北白川試験地で行います。
実習中の宿泊費・食費については実費（合計50００円程度）を徴収します。
初日の上賀茂試験地までの旅費は自己負担。
開催時期により、前期の成績発表の時期に間に合わない可能性があります。